

## カレント自動車(7690)

新車供給の減少、および第三者との接触を避ける移動手段としての注目から、国内中古車市場が堅調に推移  
TOKYO PRO Market | 自動車卸売 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG 7690:JP | REUTERS 7690.T

- 2020/10 通期は、売上高が前期比 29.9%増、営業利益が同 69.0%増、経常利益が同 82.5%増、当期利益が同 2.4 倍の増収増益だった。
- 新車供給の減少、および第三者との接触が避けられる移動手段として改めてクルマへの注目が集まり、国内中古車市場が堅調に推移。
- IT を活用したデータ取得・分析により、中古輸入車買取と販売の主力事業と周辺事業との間のシナジー効果が高まると期待される。

### What is the news?

12/15発表の2020/10通期は、売上高が前期比29.9%増の30.23億円、営業利益が同69.0%増の2.29億円、経常利益が同82.5%増の2.29億円、当期利益が同2.4倍の1.58億円の増収増益だった。

自動車業界においては、新車需要の低迷を受けて生産調整を行う事業者が増加した一方で、同社が属する自動車アフターマーケット領域では、新車の供給が減少する中で中古車需要が2020年後半にかけて増加したほか、第三者との接触が避けられる移動手段として改めてクルマへの注目が集まり、国内の中古車市場が2020年後半から堅調に推移した。このような環境の下、ITを活用した施策が奏功し、過去最高となる売上高を記録した。

部門ごとの売上高は以下の通り。輸入車買取事業、輸入車販売事業を展開する「車両部門」は、前期比37.4%増の24.48億円だった。IT事業、パーツサプライ事業、修理・整備事業、整備ネットワーク事業、その他事業から構成される「車両関連部門」は同5.4%増の5.75億円だった。

また、同社の主要取引先で中古車オークションの運営を行うユー・エス・エス(4732)向けの売上高は前期比60.1%増の20.81億円となり、売上構成比が同13.0ポイント上昇の68.8%となった。

### How do we view this?

2021/10 通期の会社計画は、売上高が前期比 98.4%増の 60 億円、営業利益が同 74.1%増の 4.0 億円、経常利益が同 69.7%増の 3.9 億円、当期利益が同 64.2%増の 2.6 億円である。引き続き新型コロナウイルス感染症が多大な影響を与えるものと見込まれるなか、同社は、自動車アフターマーケット領域で中古輸入車に対する需要が堅調に推移すると想定し、同社の強みである IT を活用した施策の遂行により主要サービスである買取事業を中心に更なる市場開拓を進めるとしている。

同社の事業モデルは、中古輸入車両の買取と販売を主力事業としつつ、販売後の保有に係る車両整備、部品交換などの周辺事業で顧客と長期的な関係を構築して持続的に収益を上げられる点に特色がある。IT を活用したデータ取得・分析により、主力事業と周辺事業との間のシナジー効果が高まると期待されよう。

### 業績推移

事業年度	2018/10	2019/10	2020/10	2021/10F
売上高(百万円)	1,527	2,327	3,023	6,000
経常利益(百万円)	38	125	229	390
当期利益(百万円)	27	64	158	260
EPS(円)	45.16	107.97	263.96	433.33
PER(倍)	46.50	19.45	7.96	4.85
BPS(円)	77.66	185.89	450.55	-
PBR(倍)	27.04	11.30	4.66	-
配当(円)	-	-	-	-
配当利回り(%)	-	-	-	-

(※)2020/2/27付で普通株式1株につき3,000株の割合で株式分割を実施したが、2018/10期の期首に当該株式分割が行われたと仮定してEPS、BPSを算定している。(出所:会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=会社予想)

配当予想(円) - (会社予想)  
株価(円) 2,100 2021/2/9(基準値)

### 会社概要

2000年に代表取締役社長の江頭大介氏が中古輸入車の買取・販売を目的として横浜市で設立。同社グループは自動車のアフターマーケット領域で事業を展開している。事業セグメントは「車両およびその関連事業」の単一セグメントだが、単一セグメントによるリスクを回避すべく周辺事業を多角展開し、以下の7事業を手掛けている。

車両部門は、①自社運営のWEBサイト「外車王」を通じて中古車の買取を行い、オートオークションを通じて市場への再流通を行う「輸入車買取事業」、②自社の輸入名車専門店より、車好きのマニア層に人気の高い中古車モデルを販売する「輸入車販売事業」から構成される。

車両関連部門は、③「外車王」における買取査定依頼案件を提携パートナーに紹介する「IT事業」、④整備事業者への卸売りや自社運営のECサイト「EURO AUTO」を通じた販売により輸入車に特化したパーツの供給事業を行う「パーツサプライ事業」、⑤車両整備工場の運営とともに、「ドクター輸入車」の旗艦店としての機能も併せ持つ「修理・整備事業」、⑥輸入車整備に特化した整備事業の「ドクター輸入車」のフランチャイズ本部を運営する「整備ネットワーク事業」、⑦クラシックカーの電気自動車へのコンバート(変換)サービス、レンタカーサービスなどを行う「その他事業」から構成される。

2020/5/20にTOKYO PRO Marketへ上場を果たした。

### 企業データ



主要株主(2021/1/29) (%)  
1.ディーイー工業合同会社 40.00  
1.江頭 大介 40.00  
3.竹下 智彦 10.00  
4.渡辺 一世 5.00  
(出所:会社公表資料をもとにフィリップ証券作成)

### アナリスト

笹木 和弘  
kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp  
+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘  
リサーチ部 李 一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

1. 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。
2. 当社は、東京証券取引所の定める「特定上場有価証券に関する上場規程の特例」(以下「特例」)第102条の規定に基づき、発行会社の担当 J-Adviser に就任する旨の契約を締結いたしております。また、当社は、「特例」第135条に定める流動性プロバイダーであり、発行会社株式の円滑な流通の確保に努めるほか、流動性プロバイダーとしての義務を負っています。